

リーダーになる!

実践する上司学。

嶋津良智による、よきリーダー、上司になるための必読コラム。



嶋津良智 著 リーダースアカデミー学長。早稲田大学講師。大学卒業後、IT系ベンチャー企業に入社、トップセールスマンとなり、24歳で最年少営業部長に就任。1993年に独立、起業。94年に共同で情報通信機器販売の新会社を設立。2004年にIPOを果たす。05年に教育機関、「リーダーズアカデミー」を設立。

第47回 活気を作るのは上司の役目

職場や部署で活気がないならば、上司が積極的にコミュニケーションの活性化に努めましょう。方法はいくらでもあります。

活気がない理由とは コミュニケーション不足

自分の部下たちを眺めてみると、「みんな黙々と仕事をしているが、なんとなく活気が感じられないなあ」と思うことはありませぬか。みんなが真面目に仕事をしていることは、もちろん良いことですが、活気が感じられないというのは、ちよつと困りものです。そのような職場には、コ

ミュニケーションが不足し



ているのではないのでしょうか。あなたが新任の上司であることを理由に、なんとなく人間関係ができていないとか、新しい人が数人いてチームワークがうまくできていないなど、コミュニケーション不足の理由はさまざま

あります。そんな雰囲気の中で、「なんとなく暗いなあ」「もつと、活気づけばいいのになあ」と思っているだけではないけません。上司であるあなたが、積極的に部下とコミュニケーションをとったり、部下同士のコミュニケーションの下地をつくってあげていくべきです。

ときには、終業後にビールや乾き物などを買い込んで、「いつもみんな頑張っ

て仕事してくれているので、これはわたしからのおごりだよ」と言ってお酒を飲ませたり、2杯は付き合ってくれようから、普段とはまったく違ったコミュニケーションをとることができないでしょうか。

部下との円滑な関係 将来のビジョン共有

外に飲みに行くのも悪い手ではありません。しかし、飲みに行ったら、基本的には「自分から仕事の話はない」というルールを守る

べきです。せつかく部下とコミュニケーションを円滑にするために飲み屋へ行ってのには、上司が説教をしたり、くどくどと仕事の話をしては、部下はうんざりしてしまいます。部下の方から仕事の話をしてきた場合にも、「今後は、こんな展開を目指しているんだよね」とこんな部署になれるかという思いだけで、何かいいアイデアはないかな」という感じで、今後のこと、将来的なビジョンなどの話をするのがいいでしょう。間違っても、「ノルマは達成できそうか?」なんて話題はタブーです。(「上司のルール」より転載)